

【開催レポート】親子で夏休みの自由研究！パラアスリートと学ぶ テーマは“バリアフリー”、舞台はパラスポーツ専用体育館

公益財団法人日本財団パラスポーツサポートセンター(以下「パラサポ」、所在地：東京都港区、会長：山脇康)は、8日、パラスポーツ専用体育館「日本財団パラアリーナ」(所在地：東京都品川区)において、**あすチャレ！夏休み親子向けイベント「バリアフリーの自由研究」**を開催しました。



午前の部・午後の部合計で41組104名の親子が参加したイベントは、パラサポが全国で3,800回以上開催、40万人以上が参加している教育・研修プログラム「あすチャレ！」の講師を務めるパラアスリート9名が案内役となり、パラスポーツ専用体育館「日本財団パラアリーナ」のバリアフリーやパラスポーツの工夫などを説明しました。

2023年度「あすチャレ！」協賛社の株式会社ブリヂストン、株式会社JTB、中外製薬株式会社、日本電気株式会社(NEC)、株式会社アシックス、日本航空株式会社(JAL)からはボランティア16名が参加し、誘導や体験サポートなどを行いました。



競技用車いすに乗って、パラアスリートの意見を取り入れた「日本財団パラアリーナ」の工夫を学ぶ



東京パラリンピック後も、パラスポーツを通じ共生社会の実現を目指すという企業や社員は多い

【報道関係者からの問い合わせ先】

パラサポPR事務局(株)アンティル 担当：水口・松下・根本(緊急連絡先 水口：050-5235-5050)
TEL：03-6821-7863 FAX：03-6685-5265 Mail：parasapo@vectorinc.co.jp

「移動のバリアフリー」、「施設のバリアフリー」そして「パラスポーツの工夫・体験」

約2時間の学びと体験プログラムでは、パラアスリートたちが、「盲導犬は信号の色が分かるかな」などのクイズ形式でバリアフリーの気づきを深め、競技用の車いすに乗りながら、歩く時とは違う目線で見やすいサインの位置や、手の届きやすい高さを体感し、考える機会を提供しました。



【視覚に障がいのある人の移動】

有安諒平 (ありやす・りょうへい、パラローイング/クロスカントリースキー)
中澤隆 (なかざわ・りゅう、パラトライアスロン)

【車いすユーザーの車の移動】

馬島 誠 (まじま・まこと、パラ・パワーリフティング/パラアイスホッケー)
渡邊剛 (わたなべ・つよし、パラ卓球)
官野一彦 (かんの・かずひこ、車いすラグビー/パラサイクリング)

【施設のバリアフリー】

山本恵理 (やまもと・えり、パラ・パワーリフティング)

【パラスポーツの工夫・体験】

神保康広 (じんぼ・やすひろ、車いすバスケットボール)
高田朋枝 (たかだ・ともえ、ゴールボール)
永尾嘉章 (ながお・よしふみ、パラ陸上)



【視覚に障がいのある人の移動】
白杖を持っている人を見かけたら
どんなふうに声をかけて欲しいかも説明



【視覚に障がいのある人の移動】
「盲導犬は全国に千頭しかいない」という事実には
驚きの声があがった



【車いすユーザーの車の移動】
車いすユーザーの自家用車に乗り、
アクセルやブレーキがどうなっているか見て知る



【施設のバリアフリー】
バリアフリーや色々な工夫が分かるように
車いすユーザーの視点で施設内を探検



「練習をして上手くなる、というスポーツのプロセスは障がいのあるなし関係ない」と車いすバスケットボールの魅力伝える



「音があれば楽しめるのがゴールボール。視覚以外の感覚を使って、工夫があればできる。自分たちの遊びにも、取り入れて欲しい」



パラ陸上（レーサー）は、10秒間こいで、スピードチャレンジ。応援はチカラになる！とハリセンでエールを送り合う参加者



ふだんは学校や企業で講師として全国をまわるパラアスリートたち

「盲導犬のポーチの中身は何ですか」、「レーサーは一日に何回こぎますか」



プログラムの最後、パラアスリートに聞いてみたいことを何でも質問できる質疑応答の時間では、「盲導犬のポーチの中身は何ですか」、「車いすでも使える車にするには、いくらかかりますか」、「レーサーは一日に何回こぎますか」、「パラリンピックでメダルを獲ったことがある人はいますか」、「今日お留守番している子どもが車いすユーザーです。パラスポーツを始めたいと思います何がいいですか」など、率直な質問をパラアスリートに投げかけ、30分では足りないくらい積極的なコミュニケーションが繰り返されました。

参加者、ボランティアの声

「子どもの学校にパラアスリートが来て車いすバスケットボールを体験したこともあり、私も実物を見てみたいと思って応募した」という保護者は、「実際にゴールボールのボールを初めて手に取って、穴が開いていることや音の鳴る鈴が入っているなどの工夫により、耳を頼りにスポーツが成立していて、改めてアスリートの方々はすごいなと思いました。すごく印象的でした」とコメント。一緒に参加した姉妹は「すごく楽しかったです。車いすバスケットが最初はできなかつたけれど、最後にできるようになったのが嬉しかったです」「点字ブロックがないところで、目の不自由な方が迷っていたりしたら、道を教えてあげられたらいいなと思います」と感想を述べていました。

ボランティアは、「子どもが大きくなったので、夏休みは社会貢献！」「普段は入れない日本財団パラアリーナに来てみたかった」「今年の新入社員で、ボランティアは人生初です。これからももっとボランティアに参加していきたいと思った」「実際にパラスポーツを間近で見ることが楽しい」と話し、大半が休暇を取って参加していました。

パラサポの教育・研修プログラム「あすチャレ！」について

「あすチャレ！」は日本財団パラスポーツサポートセンター（パラサポ）が提供するD&I社会実現に向けた教育・研修プログラムです。

「あすチャレ！」が提供する5つのプログラムは、小・中・高・特別支援学校等の授業で導入されている教育プログラム、そして企業・団体・自治体・大学向けの研修プログラムとして、多様なニーズや目的にあわせ活用されています。パラアスリートを中心とした80名以上の講師が在籍、全国どこでも一律料金（一部プログラムを除く）で実施ができます。

2020年からはオンライン版プログラムもスタートし、対面・オンラインと参加形式も選択でき、2016年度のプログラム開始から2022年度末までに**約3,800回、40万人以上が参加**しています。

「あすチャレ！」協賛社

2023年度は以下の協賛社とともに、全国で実施しています。

【GOLD PARTNER】株式会社ブリヂストン、株式会社JTB

【OFFICIAL PARTNER】中外製薬株式会社、日本電気株式会社、株式会社アシックス、日本航空株式会社



小・中・高・特別支援学校向け
パラスポーツ体験型授業「あすチャレ！スクール」



企業・団体・自治体・大学向け
ダイバーシティ研修「あすチャレ！Academy」

☆「あすチャレ！」公式サイト | <https://www.parasapo.tokyo/asuchalle/outline/>

日本財団パラスポーツサポートセンター（パラサポ）について

2015年5月に活動を開始した日本財団パラスポーツサポートセンター（パラサポ）は、「**SOCIAL CHANGE with SPORTS**」をスローガンに、パラスポーツを通じて、一人ひとりの違いを認め、誰もが活躍できるダイバーシティ&インクルージョン（D&I）社会の実現を目指しています。設立以来、パラリンピック競技団体の運営支援とパラスポーツ専用体育館「日本財団パラアリーナ」の運営、そして約80名のパラアスリートを中心とした講師たちと一緒に知る、学ぶ、体験する、小・中・高・特別支援学校向け教育プログラムと、企業・団体・自治体・大学向けの研修プログラム「あすチャレ！」を展開しています。

2022年1月1日付けにて団体名を日本財団パラリンピックサポートセンターから「日本財団パラスポーツサポートセンター」に改称いたしました。

☆パラサポ公式サイト | <https://www.parasapo.or.jp/>